

令和7年度 第1回八戸市スポーツによる人・健康・まちづくり推進協議会 会議録

○日時

令和7年10月9日（木） 14時00分～15時25分

○場所

八戸市庁 本館3階 議会第2委員会室

○出席委員（50音順）

荒木興一委員、遠藤弘子委員、木村浩哉委員、木村政和委員
東山国男委員、平間恵美委員、米内正明委員、宮腰直幸委員

○事務局

工藤観光文化スポーツ部長、山本観光文化スポーツ部次長兼スポーツ振興課長
岩舘スポーツ振興課副参事（スポーツ振興グループリーダー）、
四戸スポーツ振興課主査

次 第

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 審議
 - （1）スポーツ活動に関する市民アンケートの結果について
 - （2）八戸市スポーツ推進計画の進捗状況について
- 4 その他
- 5 閉会

次第 1 開会

司 会 本日は、御多用のところ、御出席いただきまして誠にありがとうございます。
本日司会を務めます、観光文化スポーツ部スポーツ振興課グループリーダーの岩館です。よろしくお願いいたします。
それでは、ただいまより、令和7年度 第1回 八戸市スポーツによる人・健康・まちづくり推進協議会を開催いたします。
会議に先立ちまして、会議の成立を確認いたします。
八戸市スポーツによる人・健康・まちづくり推進協議会規則第5条第2項の規定により、半数以上の委員の出席が会議成立の要件でございます。
本日は、荒谷委員と松橋委員が御欠席となっておりますが、委員10名のうち、8名の御出席をいただいておりますので、会議が成立することを報告申し上げます。
また、本日は傍聴のお申し込みがありませんでしたので、併せて報告申し上げます。
続きまして、観光文化スポーツ部長の工藤より、当協議会の令和7年度の事務局を御紹介いたします。

部 長 観光文化スポーツ部長の工藤でございます。
観光文化スポーツ部次長兼スポーツ振興課長の山本です。
スポーツ振興課スポーツ振興グループリーダーの岩館です。
スポーツ振興課主査の四戸です。
以上です。よろしくお願いいたします。

司 会 続きまして、本日の資料の確認をいたします。
次第、委員名簿、席図、説明資料として、「資料1 スポーツ活動に関する市民アンケートの結果について」、「資料2 八戸市スポーツ推進計画の進捗状況について」、以上となりますが、資料の漏れなどはございませんか。
それでは、はじめに宮腰会長から御挨拶いただきたいと思います。宮腰会長お願いいたします。

会 長 皆様、お忙しいところ御苦労さまでございます。今年の第1回の会となりますが、議題といたしましては、市民アンケートの結果と、それから、もう一つがスポーツ振興計画の進捗状況について、皆さんから御意見をいただくということになっておりますので、是非、活発な、と言いますか、いろいろな御意見をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

司 会 ありがとうございます。それでは、宮腰会長、議事進行をお願いいたします。

次第 3 審議

会 長 それでは、次第のほうに従いまして、(1) スポーツ活動に関する市民アンケートの結果について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局 今年度、担当となりました四戸と申します。改めて、よろしくをお願いいたします。

 それでは、スポーツ活動に関する市民アンケートの結果について、御説明いたします。

 資料1「スポーツ活動に関する市民アンケートの結果について」を御覧願います。

 まず、1、調査概要の(1)目的についてですが、このアンケートの目的といたしましては、八戸市が掲げているスポーツを「する」、「みる」、「ささえる」というそれぞれの関わり方でのスポーツ活動について、市民の皆様の現状やニーズ等を把握し、スポーツ推進計画の進捗確認、施策の見直し及び改善のために活用するものでございます。

 (2)調査期間ですが、令和7年6月27日から7月31日まで、約1か月実施しております。

 (3)調査対象、調査方法、回答数についてですが、18歳以上の八戸市民を対象に、WEBアンケートにより実施した調査の回答者数は53件でございました。また、市政モニターを対象にした、郵送による調査の回答者数は94件でございまして、合計すると147件の回答がございました。

 続いて、2、調査結果について御説明いたします。

 なお、各項目にて構成比をパーセントで表記しておりますが、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100%とならない場合がありますので、御留意ください。

 まず、問1-1から1-7までは、全回答者に自分自身のことについて聞いており、いずれも選択肢の中から1つを選ぶ形式の設問です。

 問1-1は性別、問1-2は年齢となっており、結果は御覧の表、グラフのとおりでございます。年齢で10代、20代が少ないという以外は、男女比、年齢比とも比較的バランスよく集まったと捉えております。

 2ページを御覧ください。問1-3は職業、問1-4は居住している地区、問1-5は市内での居住年数となっております。職業で会社員・会社役員の方が多く、また、市内に長く居住している方が多い、そういった傾向が見て取れます。

続いて、3ページを御覧願います。問1-6は現在の健康状態について聞いており、左側の円グラフが集計結果でございます。「健康である」と「どちらかといえば健康である」がともに43.5%で、併せて9割弱を占めております。

問1-7は、現在、運動不足だと思うかについて聞いており、右側のグラフになります。「運動不足である」が35.4%、「どちらかといえば運動不足である」が41.5%、併せて4分の3に達しています。健康だけでも運動不足を感じている人が多い、という結果でございます。

また、この2つの設問をクロス集計したものが下半分の表になります。1-6で「健康である」と答えた人のうち、28.1%が「運動不足である」、35.9%が「どちらかといえば運動不足である」と答えており、およそ3分の2の人が運動不足を感じている結果となりました。また、問1-6で「どちらかといえば健康でない」と答えた人の66.7%が「運動不足である」、33.3%が「どちらかといえば運動不足である」と答え、これで100%になっていますので、「健康である」と答えた人よりは運動不足だと考えている人の割合が多いという結果となりました。

4ページを御覧ください。問2-1から2-10までは「する」スポーツについての質問でございます。まず、問2-1では、全回答者に過去1年間でおこなったスポーツについて複数回答可として聞いており、スポーツを1度でもおこなった人、すなわち1つ以上のスポーツを選択した人は123名で全体の83.7%、スポーツをおこなわなかった人は24名で16.3%となっております。

次に、過去1年間におこなったスポーツの種類、回答の内容についてですが、下半分の棒グラフを御覧ください。「ウォーキング」の回答数が102と最も多く、次いで、「トレーニング」44、「ランニング」27、「体操・ダンス」26、「屋内球技」22、「水泳」15、などとなっております。

5ページを御覧ください。問2-2から2-8までは、問2-1で「スポーツを行っている」と回答した123名を対象とした設問です。問2-2はスポーツの頻度、問2-3は1日あたりの時間を聞いており、頻度につきましては、「週に3～6日」が27.6%と最も多く、次いで、「週に1～2日」が26.0%、「月に1～3日」が22.0%、などとなっております。

また、1日あたりの時間は、右側のグラフになりますが、「30分～1時間」という方が38.2%と最も多く、次いで、「1～2時間」が30.9%、「30分未満」が16.3%、などとなっております。

問2-2と2-3をクロス集計したのが下半分の表になります。この中で赤で囲んだ部分、1日30分以上、それをさらに週1回以上の頻度で行った人に着目しますと63人おりまして、スポーツを行った人の中の51.2%、また回答者全体でも42.9%に達しています。

6 ページを御覧ください。問 2-4 は今回新たに追加した設問になります。問 2-3 で選んだ 1 日当たりのスポーツの時間について、これまでどのくらい継続しておこなっているか、継続性を聞いています。「1 年以上 5 年未満」続いているという方が 39.0%と最も多く、次いで、「1 年未満」が 24.4%、「5 年以上 10 年未満」と「10 年以上」という方がともに 17.9%でした。運動の習慣が長続きしている人が多いという結果となりました。

問 2-5、2-6 でスポーツをおこなった時間帯と場所を複数回答可として聞いております。時間帯については、「平日昼間」が 31.7%と最も多く、次いで、「休日昼間」22.1%、「平日夜間」15.4%、などとなっております。

また、スポーツをおこなった場所は、右側のグラフになりますが「自宅・自宅周辺」という方が 31.9%と最も多く、次いで、「公共スポーツ施設」20.1%、「公園・広場」15.3%、「民間スポーツ施設」11.4%、などとなっております。

7 ページを御覧ください。問 2-7、2-8 では、スポーツをおこなった理由と形態を複数回答可として聞いており、理由については、「健康・体力づくり」が 30.2%と最も多く、次いで「運動不足の解消」26.1%、「楽しみ・気晴らし」20.5%、などとなっております。スポーツをおこなった形態については、「個人・家族・友人と」の回答数が 103 と突出しております。次いで、「地域のクラブ等」で 12、「有志のクラブ等」で 11、などとなっております。

8 ページを御覧ください。問 2-9、2-10 では、問 2-1 で「スポーツをおこなっていない」と回答した 24 人に対して、スポーツをおこなうことへの妨げになっているもの、スポーツをおこなうことへの今後の予定を聞いており、スポーツを行うことへの妨げになっているものとしては、複数回答可で聞きましたところ、上半分の棒グラフのような結果になっています。「お金に余裕がない」ですとか、家事や育児、介護等「家庭が忙しい」、「仕事が忙しい」という回答がともに 8 件と最も多くなっております、続いて、「病気・怪我・高齢等でできない」が 7 件などとなっております。

また、下段、問 2-10 のスポーツをおこなうことについての今後の予定については、問 2-9 で挙げた「妨げが解決したらスポーツを始めたい」という方が 50.2%と最も多く、次いで、「どちらともいえない」が 37.5%、となっております。ですので、スポーツをしたいという意識を多くの方が持っているけれども、何かしら妨げがあってできていない、という可能性が見て取れます。

9 ページを御覧ください。問 3-1 から問 3-8 までは「みる」スポーツについて質問してございます。

まず、問 3-1 は、過去 1 年間で、アマスポーツも含め、直接会場に行つてスポーツ観戦した頻度を聞いており、その結果は、「年に 1～5 回」が全体の 19.7%と最も多く、次いで、「月に 1～3 回」10.2%、「年に 6～10 回」8.2%、な

どとなっております。また、観戦を全くしていないという方も多少いらっしゃいまして 53.7%となっております。

後に改めてお話ししますが、スポーツ推進計画の数値目標として、「アマスポーツも含めたスポーツ観戦率」というのがございまして、そちらは、このアンケート結果を利用しております。9ページの下半分のところで御説明しておりますけれども、スポーツ観戦率については「年に1～5回」と答えた方から、さらに「週に1回以上」と答えた方までの合計の観戦率を算出しまして、令和6年度の実績は43.5%となっております。これについては、次の議題で触れます。

10ページを御覧ください。問3-2は、地域プロスポーツチーム、4チームでございますけれども、その中で知っているチームを複数回答可として聞いております。その認知度といたしましては、「ヴァンラーレ八戸FC」が90.5%と最も高く、「東北フリーブレイズ」78.2%、「青森ワッツ」75.5%、「八戸ダイム」36.1%、「どのチームも知らない」という方もいらっしゃいまして4.8%となっております。

続いて、下段にいきまして、問3-3では、会場で観戦したことのあるホーム戦、問3-4ではテレビ等で観戦したことのあるホーム戦をそれぞれ複数回答可として聞いてございまして、その観戦状況といたしましては、11ページにかけて御説明しておりますけれども、会場で観戦したという方は、「ヴァンラーレ八戸FC」が15.0%と最も高く、次いで、「東北フリーブレイズ」11.6%、「青森ワッツ」5.4%、「八戸ダイム」2.7%となっており、「どのホーム戦も現地にいって観戦しなかった」は72.1%いらっしゃいました。

また、テレビ等での観戦は、棒グラフのえんじ色のほうでございまして、「ヴァンラーレ八戸FC」29.3%と最も高く、次いで、「東北フリーブレイズ」8.2%、「青森ワッツ」7.5%、「八戸ダイム」0.7%となっており、「どのホーム戦もテレビ等で観戦しなかった」方は66.0%でございました。

次に、問3-5では、会場又はテレビ等でいずれかのホーム戦を観戦した方、全部で58名いらっしゃいました。それらの方に対しまして、理由を複数回答可として聞いてございまして、「そのスポーツが好き」が36件と最も多く、次いで「そのチームや選手を応援している」が28件、「チケットがあった、もらった」12件、などとなっております。

12ページを御覧ください。問3-6では、同じく58名の方に観戦して感じたことを複数回答可として聞いております。「チームや選手に親近感をもった」が30件で最も多く、次いで「気分転換、ストレス解消ができた」が29件、「元気が出た」が28件、「感動した」が23件などとなっております。皆さんポジティブな感想を持ったということでございます。実は、選択肢の中に「もう観

戦したくないと思った」という選択肢もありましたが、そちらを選んだ方はいらっしゃいませんでした。

次に、下段に行きまして、問 3-7 では、会場とテレビ等での観戦のどちらが多かったかを聞いており、それぞれのホーム戦における会場とテレビ等の観戦割合は、御覧のとおりとなっております。東北フリーブレイズがどちらかという会場に行って観戦したという方が多く、他の 3 チームはテレビ等での観戦した方が多いという結果となっております。

13 ページを御覧ください。問 3-8、こちらは全回答者に対し、プロスポーツを観戦していただくために何が必要かということを複数回答可として聞いております。一番多かったのが「市民割引等の特典の充実」で 31.1%と最も多く、次いで、「キッチンカー等の会場周辺の飲食の充実」19.1%、「シャトルバス等の移動手段の充実」16.3%、「チームとの交流機会の充実」12.7%などとなっております。

14 ページを御覧ください。ここからは、「ささえる」スポーツについての質問となっております。

まず、問 4-1 は、全回答者に過去 1 年間におこなったスポーツに関するボランティア活動について複数回答可として聞いております。1 つ以上のボランティア活動を選択した人は全部で 37 人いらっしゃいまして全体の 25.2%、「ボランティア活動をおこなわなかった」という方は 73.5%となっております。

ボランティア活動をおこなった人の活動内容の内訳が右側の棒グラフになります。多い方から「自身や家族が所属する団体・クラブ等での補助的な活動」という方が 19 件と最も多く、次いで、「大会・イベントの運営や世話をした」が 16 件、「クラブ・団体等の運営や世話をした」が 11 件、「スポーツの審判をした」が 10 件、「スポーツの指導をした」6 件などとなっております。

続いて、問 4-2 では、全回答者に、どんな動機づけがあればボランティア活動を続けたいか、もしくは、新たにおこなったりするかということ聞いています。15 ページにかけて御説明しておりますけれども、「好きなスポーツの普及・支援」につながればという方が 74 件と最も多く、次いで、「社会貢献」になればという方が 54 件、「活動にかかる実費等の報酬」があればという方が 45 件、「地域での居場所、役割、生きがい」につながればという方が 44 件、「出会い・交流の場」になればという方が 36 件などとなっております。また、「どんな動機づけがあってもおこなわない」という方も 20 件いらっしゃいました。

次に、問 4-3、4-4 では、スポーツに関する資格の保有について聞いております。スポーツに関する資格の保有状況としては、「保有している」という方が全体の 7.5%、「保有していない」が 89.1%、「回答しない」が 3.4%となっております。

また、保有している資格名については、問 4-4 で聞いておりますが、8 名から具体的な回答がございました。自由記述で聞いておまして、15 ページの下段に記載しているとおりでございます。メジャーなスポーツから聞きなれないスポーツまで、さまざま資格を持っている方がいらっしゃるかと思います。

資料の説明は以上でございます。

会 長 はい、ありがとうございます。アンケートが非常に膨大なので、一気に御意見を取っても、非常に言いにくいと思いますので、3 つに分かれているセクションの、まず「する」スポーツに関してのところでは御意見がありましたらお願いいたします。ページとしては 8 ページまでですかね。それでも結構多いと思いますけれども、何かありましたら、お願いします。

委 員 4 ページ目の過去 1 年間に行ったスポーツの種類の中で、例えばニュースポーツ等、アーバンスポーツ、この辺の具体的なイメージについて、もし記載があるのでしたら教えていただきたいなと思います。どんな種目でしょうか。

事務局 ニュースポーツ、あるいは、アーバンスポーツの具体的な内容ということでございますね。ニュースポーツにつきましては、クロリティですとか、公式ワナゲ、シャッフルボード、スカットボールなどというふうにしておまして、全部のルールまでは分からないため、今詳しい説明はできないんですけれども、ニュースポーツということで、競技名だけ聞きますと聞きなれないものが多いように思います。一方で、アーバンスポーツにつきましては、最近はやっているボルダリングですとか、自転車で競技する BMX、あとはスケートボードですとか、これらは昔からあるのですけれども、比較的若い年齢の方が、アーバンと付いていますので、都市の中においていろいろな場所で行えるようなスポーツといったことになるかと思えます。

事務局 ニュースポーツで補足をいたします。ニュースポーツというのは、子どもでも大人でも、女性でも男性でも、障がいをお持ちの方でも、みんなが一緒になくてできるスポーツをニュースポーツという定義にしておまして、例えばフリスビーみたいなものを 1 から 9 までの的に当てるようなものもニュースポーツの種類としてありますし、あとはボッチャとか、北欧で生まれた棒を倒して点数を争うモルックとか、ボウリングを簡易版としてやるものとか、そうい

ういろんな種類のものを総称してニュースポーツということになっております。

委員 はい。ありがとうございます。

会長 他にありますか。ちょっと量も多いので、若干、時間を取りたいと思います。

委員 また、お聞きしたいのですけれども、よろしいですか。6ページです。スポーツを行った場所の中で、公共スポーツ施設と民間スポーツ施設とあるんですが、その具体的な施設名などは記載がありましたか。

事務局 それについては具体的に記載をしておりません。資料に表示しているとおりの選択肢でした。

委員 民間のスポーツクラブやジムとか、有料ということになりますが、どこが今人気があるのかとか。公共スポーツ施設で言えば、トレーニング室が1時間100円とか、そういうものであるだろうと思うんですけれども、全てがその施設ではないとは思いますが、その辺が見えてくると、また対応が考えられるのかなと。民間スポーツジムの割引券を八戸市で少し作ってあげるとか。それは、企業と密着になるので、あれでしょうけれども。

委員 よろしいですか。私は、他にあまり行けないものですから、民間のスポーツジムに10年通っています。最近、その民間スポーツジムで1か月無料体験ということで、WEBとかで募集があって、体験したいという方が一度にちょっと大変な数の方が来られて、施設側はうれしい悲鳴を上げていました。私は、どういったことでも継続したほうがいいと思っていて、例えば、いろいろな事情があって、年齢のこともあって行けない時があっても、とにかく行ける時は月に10～12回の目標を立てて、あと行けない時はのんびりと体調を整えてから行くということをやって、あと民間スポーツジムでは毎月計測というのをやっていて、来たことによってどのくらい筋肉量のパーセンテージが上がったとか、いろんなことをやって自分の努力が見えるようなことをやるなど、対応をしてもらっています。市のスポーツ施設にはこの年齢ですから一人では行けないのですけれども、民間のスポーツジムでコーチが居て教えてもらう分にはとても行きやすいです。年齢90歳の方も来ているって聞いていますので。私はとても楽しみにして今行っています。以上、余談でございます。

委員 そうしますと、委員は民間スポーツジムを使われていて、平日の昼間の運動をされているということでしょうか。

委員 スポーツジムの営業時間は10時から13時までと、15時から19時までという時間帯になっています。私は電気屋を営んでいるものですから、御客様から家電の修理などのため、自分たちが生きているうちは続けてもらいたいと言われて、半分楽しみながら仕事をしておりまして、昼間お店を閉めてばかりで民間スポーツジムに行くとは何ですので、10時の開店に並んで待っている方もいますが、私は12時くらいから13時までの間に行ったり、18時に店を閉めてから19時までの時間帯に行くなどしています。皆さん、さまざま時間帯で利用しておられますが、張り切って若い感じで活動されていて、時間のある方は10時の開店に並んでいて、10時の開店時は混んでいます。スポーツジムに行くとはすごく涼しく運動できる環境があるのですけれども、暑さで外出を控えた方がいいかなという時季は、そこまで混んでいなかったのですが、このところ涼しくなって、皆さんが日中に出歩くようになって、外に出ても過ごしやすい時期になったということで、すごく混んできたと聞いていました。

委員 「する」スポーツのほうは、この辺が何か民間のスポーツ施設と上手く提携を組めたら、ひょっとしたらですね。

委員 民間スポーツジムでは、会員が伸び悩んでいる時は、町内会とかいろんな所にちょっとした体力測定を行うので御協力していただけないでしょうか、というアプローチもしていたと聞いていました。全国に展開している企業ですので、そうした企業努力も行っているみたいですよ。

会長 委員、お願いします。

委員 年齢構成、20代が11人、職業構成、学生1人ということで、20代、30代という若い世代の「する」スポーツ、「みる」スポーツ、「ささえる」スポーツの実態が見えてこないのではないかなというのが、このアンケートの構成人数、回答数を見ていると、そういうようなことを感じました。結局、プロスポーツを見るのも学生とか時間のある若い世代とか、あるいは、小学生、中学生、高校生のスポーツを支えるにしても、そういう若い世代の人たちがいかに八戸市でスポーツに関心をもってもらう、プロスポーツを見に行くのもうねりが出てくるのもそういう若い力が必要かなと思ったんですけども。このアンケートを見る限りだと、まず学生の回答は1人ですし、20代も10人程度し

か回答していないので、どういう実態にあるのかなというのが、ちょっと見えてこないなあということを感じました。以上です。

会 長 他にいかがでしょうか。委員、お願いします。

委 員 私ももうこの年齢になって、やっぱり民間のところを使う機会が多くなって、今24時間やっていたりするところもあるので、朝活で行くと、私も早朝の利用をしているのですが、4時とか5時台から来ている方たちも結構いらっしやって、たぶん時間が取れないとそういうサイクルになります。今これだけ働き方の幅が広いということは、例えば、市体育館とか東体育館とかの利用時間の枠内ではまらない方たちは当然そういう所にいらっしやるだろうし、あとは主婦層はまず行けない。時間帯もちょっと無理ですし、私も子育てしている時は、とても自分のためにスポーツをやるという時間が持てなかったことと、それからそこに掛けるお金がない、ジムに通うお金もやはり自分のためになるとなかなかできないので、行ける時は100円とか200円で使える市の施設を使うとか。そういう意味ではこういう人たちの層の時間帯に果たしてスポーツ施設がやっているかとか、そういうところもちょっと可能性があるのかなと。さっき委員がおっしゃったように年齢の幅でかなり違ってくると思うので、なかなか全体像を把握していくのはきっと難しいなとは思いますが、ただ、前に弘前大学の先生がおっしゃっていたんですけれども、民間のスポーツジムに行っている女性たちは圧倒的に筋力とかが付いていて、あの力は絶大だということを講演会で聞きしたんです。運動だけではなくて、そこに行って人と対話をするということも認知症対策にもいいですし、病気の予防に関しては本当にすごくいい。そういう所に行ける人と行けない人がいるので、そういうところも市でもちょっと探って、行けない人をどうやって拾っていくかということがすごく大きいのかなというふうに思います。

会 長 はい、ありがとうございます。奇しくもですが、8ページの間2-9のところの回答ですが、スポーツを行わなかった人に対する質問で、理由のトップ3がお金、家事、仕事と、今、委員が言ったとおりのものがトップ3にきていますので、本当にそのとおりの意見かと思えます。

他にいかがでしょうか。

では、次に、「みる」スポーツへの意見のほう、いかがでしょうか。

委員 この質問項目は、テレビという限定でしたか。それとも動画配信などでライブで見ているとか、それも含めてテレビを見ている方ということでしたか。

事務局 テレビ、ラジオ、インターネット等での観戦というふうになっておりましたので、動画配信などで見たとしたら、それも入っているかと思います。

委員 その情報というのが、仮に、ヴァンラーレ八戸 FC の試合がテレビ中継であれば、広告・CMが流れて、民放のテレビ局でいつ中継があるのだな、というのが分かるのですが、ネット上とかで、どこが配信元でどの時間帯に流してくれるのかという情報があればと。ケーブルテレビ等で流してくれているのが、ちょっと分からないのかなと。ライブで見るのが一番いいと思うのですが、録画でもいつ流しますとか、そういうことでテレビを見る機会とか試合を見る機会が増えると思うのすけれども、その情報がどうなのかなということと、そこに八戸市のほうがどういう関わりを持って、やっくださいという働きかけがあるとすれば、どの企業とどういう提携に持っていけるのかなということも教えてもらいたいのですけれども。

事務局 プロスポーツに関しましては、東北フリーブレイズの試合であればケーブルテレビで中継があったり、ヴァンラーレ八戸 FC のホーム戦の一部も県内テレビ局で中継があったり、あとはネット配信の有料チャンネルで行われたりしているのが主になっています。ですので、そういった是非見たい、特に今回のようにヴァンラーレ八戸 FC が首位を走っていて、アウェーの試合も是非見たいということになれば、そういうことをお知らせするというのもあるのかなと。あとは、各地元プロスポーツチームからも情報をもらいながら、市のホームページにも試合がありますということも載せていましたので、そういったものをより効果的に、今お話のありましたとおり、より多くの市民の皆様に分かるような形で出していければ、観戦ファンとか、「みるスポーツ」が広がっていくのかなと思っていました。

委員 今も市ホームページにプロスポーツの何チームかについて、メディアを通じた放映がありますというのはアップされているのでしょうか。

事務局 この日に試合がありますということはお知らせしています。どうしても、直接試合を観に行ってもらいたいということがありますので。しかし、委員から

もお話がありましたので、今後、特に県内テレビ局などでの中継に関しても情報を出していければと考えています。

委員 ありがとうございます。

会長 委員、お願いします。

委員 「みる」スポーツの問3-1のところ、プロ、アマチュア、子どもの部活動等、あらゆるスポーツ観戦を対象とし、複数ある場合は合計したおおよその頻度でお答えくださいという設問があるのですが、問3-2以降は、地域のプロスポーツに限定したような設問になっています。ですので、参考でスポーツ推進計画の数値目標43.5%という数字が挙がっていますが、その43.5%のうちのある限定したところがプロスポーツの部分になってくると思いますので、アマスポーツで回答している人の実態がちょっと分かってこない部分もあるのかなあということは感じました。以上です。

会長 観戦率の推移を見てみますと、9ページのところですが、令和4年度は19%、5年度は57.1%、6年度は43.5%と、令和6年はちょっと下がっているのですけれども、令和5年からは急激に上がっているような感じなんです。これは何かあったかなというのは、いかがでしょうか。何か、ありましたか。

委員 コロナ禍で、試合がなかったのだと思います。

会長 令和4年までは試合がなかったのですか。テレビとかでも試合がなかったのでしょうか。

委員 試合自体もなかったもので、中継もなかったと。

会長 テレビ中継でもやってないとかですか。何か、急激に上がり方がすごいなど。

事務局 これはスポーツ分野だけではなくて、観光分野でも同じようなことが起こってしまっていて、コロナ禍でバタッとなくなったものが反動で観光客がすごく動いているという事態が起こっていて、これも反動なのではないか、飢えているというふうに思っています。ですから、長続きしないで次の年に落ちている。

見たくてしょうがない人たちが試合を見に行ったから生じたというふうに理解していました。

委員 今年は上がっているのではないですか。成績がいいので。

事務局 チームによっては。サッカーは調子がいいので。

会長 他にはいかがでしょうか。

委員 プロスポーツのチーム、やっぱり、その競技に興味がないとなかなか見るといことはないのかなと思っていて、親たちであれば子どもたちがやっている、例えば野球などの競技を見るということもあるのでしょうか。もし八戸市がこの辺をもっと盛り上げていって、みんなでそこを盛り上げていこうとするのであれば、同時にスポーツ自体を仕上げるというか、もっと洗練していく。例えば、アイスホッケーとか、スピードスケートは八戸ならではの競技なのですが、なかなかスピードスケートなんかは子どもたちが行きづらい競技というイメージがあって、今後スポーツでまちづくりをしていくっていう時には、そういうところも一緒に考えていくという必要が手法としてはあるのかなという気がします。

会長 ありがとうございます。

よろしいでしょうかね。そうしましたら、最後に「ささえる」スポーツのところで御意見がありましたらお願いします。

委員 「ささえる」スポーツの間 4-4、下のほう、パーソナルトレーナー等、トレーニングの指導をする資格を持っている方の資格名称があるのですが、この方々が、公共の施設、例えば、市体育館のトレーニング室で公共の施設を使って相手の方から有料でお金を得て指導するということは規則上、可能なのでしょうか。

事務局 今お話の件に関しては、できないことになっています。

委員 それはできないですか。なるほど、分かりました。もし、そういったことが可能であれば、上手くリンクすることもできるかなと思ひまして。

事務局 市体育館のトレーニング室は有料でパーソナルトレーニングすることを想定した規定ではないと思うのです。個人利用の1時間100円とかはありますが。もし、需要があるのであれば、そのスペース自体を有料でお貸ししてトレーナーの方が来て有料でやるということが技術的にはできなくはないかもしれないのですけれども。

委員 貸し切りでなくても、一般の方が使っているところに混じって、パーソナルですので1対1でやって指導料を受け取るという形は取れるものか。

事務局 それはおそらくできないだろうと。それは公共の空間で営業行為をすることになりますので。美術館で絵を売って歩いているということと同じことになるかと思えますので。そこを全部借りるのであればできるかと思えます。

会長 他には、いかがでしょうか。全体として何かあれば、お伺いしたいのですが、無ければ次に進みたいと思えます。よろしいですか。

議題の2のほうに移りまして、八戸市スポーツ推進計画の進捗状況について、事務局から説明をお願いします。

事務局 それでは、八戸市スポーツ推進計画の進捗状況について、御説明いたします。資料2の「八戸市スポーツ推進計画の進捗状況について」を御覧ください。この資料は、八戸市スポーツ推進計画を抜粋した概要版となっております。

まず、このスポーツ推進計画について改めて御説明しますと、本計画は、平成31年3月に策定し、5年後の令和6年3月に改定しております。その後、令和6年度第1回のこちらの会議におきまして、令和元年度から令和5年度までの進捗状況について一度説明してございます。

この度、令和6年度の状況を追加しまして、進捗状況を更新したという形になっておりまして、お配りした資料では、更新箇所を赤字で表記しております。本日は最新の進捗状況を発表する趣旨でございますので、変化のない部分につきましては、簡潔に述べるに留めさせていただきたいと思えますので、よろしく願いいたします。

1 ページ目は昨年度とほとんど同じでありますので恐れ入りますが、割愛させていただきたいと思えます。

2 ページにお進みください。ここからは、八戸市スポーツ推進計画に記載されている各種の指標等について、最新の令和6年度分を加えた過去6年間の推移をお示ししていきます。

さて、2の現状の(1)市の人口の推移でございますが、令和6年度は令和5年度に比べて減少しているということが見て取れると思います。小学校児童数も、中学校生徒数も、同様に減少しております。高校生だけは少し増えていますが、全体としても人口が減少していることが読み取れます。

次に、下段に行きまして、(2)のスポーツ施設の利用状況についてですが、令和6年度は、市の公共施設さまざまございますが、合計して105万4,177人の利用がございました。公園ごとにバラつきはございますが、全体としては、令和元年度が多くて、令和2年度、3年度、4年度がコロナ禍で減少して、令和5年度はだいぶ回復してきていたんですが、令和6年度はさらに増えていると。完全に元の水準に戻ったということが見て取れるかと思えます。

続きまして、3ページを御覧ください。3、八戸の強みということで2つ挙げておりますが、1つ目は氷都八戸ということで、古くからスケートが盛んに行われていて、市民の生活にスケートが密着しているということを紹介しております。これに関連して、市では、平成27年度から、氷都八戸パワーアッププロジェクトに取り組んでおりまして、競技人口はその成果もあってか、増加傾向となっております。

氷都八戸パワーアッププロジェクトの具体的な施策としては、①幼稚園・保育園及び小学校のスケート教室に対する指導者派遣というのがありまして、令和5年度よりちょっと減ったのですが、全体としては増加傾向にあると見受けられます。また、②八戸市スケート教室の開催、これは市が主催しているスケート教室になります。こちらスピードスケートはちょっと減りましたが、フィギュアスケートは増加している。全体としては、参加者数は増えていっているということになります。③中学生の競技者に対してスケート競技用具の購入を補助するという事業もやっております。

4ページを御覧ください。八戸の強み、もう1つとして、4つのプロスポーツチームがあるということをお述べています。既に、4チームをご存じかと思いますが、それぞれの年間の観戦者数を新たに示しております。いずれも年間で見ると時には増加傾向、もしくは同じくらいの水準で推移しているというふうには言えると思います。青森ワッツだけは増えていないようにも見えるのですが、試合数が減っていった中でだいたい同じくらいの人数を維持しているということですので、1試合平均で見ると増えているとも言えるかもしれません。このように、プロスポーツチームの観戦者数については増えていっているという傾向にあります。

5ページを御覧ください。ここからは、4の課題としまして、八戸市のスポーツの課題についてスポーツを「する」「みる」「ささえる」それぞれについて挙げています。お時間もありますので表題だけ紹介しますと、スポーツを「す

る」視点からの課題としては、①「新型コロナウイルス感染症の影響に伴う行動様式の変化」とありますが、これはあるいは解決しているのかもしれませんが。②「運動機会の提供のための活動場所の確保」ということで、練習、大会開催のため、スポーツ施設の需要が増えているという状況もありますので適正な整備が必要であると考えております。③「競技力向上のためのさらなる強みの活用」、こういったものを「する」視点ということで挙げております。

(2) スポーツを「みる」視点から見た課題ですけれども、①「プロスポーツ等のスポーツをみる文化の醸成」、②「プロスポーツチームのさらなる魅力発信」、③「観光・文化、するスポーツなどの地域資源との組み合わせ」といったものを挙げております。

6 ページを御覧ください。スポーツを「ささえる」視点からみた課題として、①「多様なスポーツにおける指導者の育成」、②「産学官連携の推進」、③「大会・合宿の受け入れ体制の強化」などを挙げております。

次に、5 の基本方針でございますけれども、スポーツを「楽しみたくなるまち」の実現と「氷都八戸」の振興 ～スポーツの力でさらなる元気な八戸に～ということで、基本目標を以下にいくつか掲げています。基本目標については、8 ページ以降に改めて記載しておりますので、一旦8 ページまで進んでいただければと思います。

基本方針を実現するための基本目標というものを6 で紹介しております。おおまかに3 点掲げておまして、1 つ目は、スポーツを「する」機会の充実ということでして、具体的には①に表記してあるとおりでございますけれども、それを達成するための八戸市の施策としては、②で紹介しております。施策の1 番として、誰もがアクセスできるスポーツ活動の促進としておまして、具体的には次の3 項目です。子どもの体を動かす遊びからスポーツにつながる機会の充実ですとか、地域スポーツクラブに関する情報の一元化、ライフステージ等に応じたスポーツ活動の促進といったものを挙げています。

9 ページをご覧ください。施策の2 番目といたしまして、スポーツを通じた健康増進というものを挙げております。こちらも、3 項目ありまして、スポーツをしやすいまちづくりの推進、生活の中のスポーツ活動の定着、スポーツが健康に与える効果に関する情報発信というものを掲げています。

施策の3 番目に、プロスポーツチーム等との連携による競技力の向上ということで、こちらも、3 項目ありまして、氷都八戸の振興、レスリングのまち八戸の振興、地域プロスポーツチーム等との連携ということになっています。

施策の4 番目として、八戸市体育館の建て替え等のスポーツ施設の適正な整備及び運営ということで、八戸市体育館の建て替えと、10 ページにわたり

ますが、スポーツ施設の適切な整備、そして誰もがアクセスしやすいスポーツ施設の運営というものを掲げています。

以上、多数申し上げましたけれども、③として、これらの施策に対する、現在実施中の事業をここから挙げています。10 ページから 11 ページ、12 ページにかけて具体的な事業名と、それぞれの毎年度決算額を紹介しています。いずれの事業も若干の金額の上下はありますが、適切につつがなく事業を実施しているものであります。特に説明を要する点といたしましては、10 ページの一番下「スポーツ少年団運営支援事業」ということで、こちらは令和 6 年度はゼロとなっていて、令和 5 年度もゼロとなっています。こちらはスポーツ少年団の大会運営に対して経費の一部を補助するというものですが、令和 5 年度、6 年度はスポーツ少年団の大会に関して、補助に頼らずとも実施できたということです。決して事業を行わなかったということではございません。補助に頼らずに、例えば負担金ですとか、参加料ですとかで運営ができたので、結果ゼロということでもあります。

あと、特徴的なこととしましては、11 ページ目に移りまして、下から 2 番目の第 80 回国民スポーツ大会事業ということでございまして、皆さんご存じのとおり、来年は青森県で国スポが開催予定でございまして、その準備のための費用でございまして、令和 6 年度はスポーツ振興課から分離した国民スポーツ大会準備室という部署で執行しています。大会に近づくにつれて金額も増加しています。令和 7 年度はもっと増えています。説明が必要な部分は以上かと思っています。

12 ページに移りまして、「する」スポーツに関しての数値目標の指標でございましてけれども、④番として、スポーツ施設利用者数とスポーツ各賞受賞者数を挙げています。スポーツ施設利用者数は、冒頭でも申し上げましたとおり、増えているということで、令和 6 年度の実績は 105 万 4,177 人ですが、目標値はもっと高く 130 万人と設定しておりましたので、まだそちらには届いていないという状況であります。また、スポーツ各賞受賞者数につきましては、令和 6 年度は 32 人、正確には団体の 1 件を含んでいるので、31 人と団体 1 件ということで受賞されていまして、こちらは目標が 20 人ということで、目標を達成しています。

続きまして、13 ページを御覧ください。スポーツを「みる」という視点での施策について紹介しています。こちらでも項目だけをかいつまんで紹介していきます。②の目標達成のための具体的な施策としては、1 つ目は、スポーツ観戦の促進によるスポーツをみる文化の醸成ということで、プロスポーツチームのホーム戦等の観戦促進やプロスポーツチームのホームゲーム等のみる文化の醸成を挙げています。2 つ目として、スポーツ観戦を起点とする賑わい

の創出とありますが、プロスポーツチームのホームゲーム等開催時の賑わいの創出ですとか、4つのプロスポーツチームに関する持続的で日常的な賑わいの醸成といったものを挙げています。

14 ページを御覧ください。3つ目として、プロスポーツチームと地域産業の連携による地域経済の活性化を掲げておりまして、具体的には、プロスポーツチームと地域産業の新たな連携ですとか、プロスポーツチームと地域産業との連携による地場製品の販売促進などを挙げています。

4つ目として、スポーツ観戦と地域資源を組み合わせたスポーツツーリズムの促進というものを挙げておりまして、具体的には、地域資源との組み合わせによるスポーツツーリズムの促進ですとか、スポーツツーリズムを起点にした地域経済の活性化というものを挙げています。

こちらに関連する事業としては、新たに1つ、地域スポーツチーム応援事業というものを実施しておりまして、こちらはプロスポーツチームのホーム戦に市内小学生を無料招待する八戸市民キッズデーなどを実施しています。また、既に挙げた事業でも、こちらに該当する事業がございますので、そちらは再掲ということで下のほうに表示しております。

15 ページを御覧ください。スポーツをみるという視点での数値目標としては、プロスポーツ観戦者数をまず挙げておりまして、こちらは年々増加傾向にありまして、令和6年度は7万4,681人でした。目標値5万3千人でしたので、上回っているものであります。もう1つ、アマスポーツも含めたスポーツ観戦率は、先ほどアンケートで出てきた数値でありますけれども、令和6年度の実績は43.5%ということで、令和5年度よりは残念ながら下がりましたが、目標値は達成しているという状況であります。

最後に、(3) スポーツを「ささえる」という視点での各種施策について紹介します。②の1つ目、スポーツをささえる多様な人材の育成と活動の場の確保ということで3つ挙げています。競技スポーツをささえる多様な人材の育成と活動の場の確保、地域スポーツをささえる多様な人材の育成と活動の場の確保、アスリートのセカンドキャリアの活用といったものを挙げています。

16 ページを御覧ください。2つ目として、産学官連携によるスポーツをささえる体制の強化として2つ挙げています。「学」との連携による、ささえる体制の強化、「産」・産業との連携によるさらなる大会・合宿の誘致のための体制の強化ということも挙げています。3つ目としては、地域プロスポーツチーム等との連携による指導力の向上ということで2つ挙げておりまして、プロスポーツチームとの連携による指導力の向上、スポーツ競技団体との連携による指導力の向上というものを挙げています。4つ目として、スポーツ・インテグリティの確保ということで、スポーツ競技団体のガバナンスの強化ですと

か、スポーツ競技団体のコンプライアンスの徹底といったものを挙げています。

17 ページ、最後のページを御覧ください。スポーツをささえるという視点での具体的な事業といたしましては、スポーツ推進委員研修事業がございます。スポーツ基本法に基づいて、八戸市では委員を 42 名委嘱しておりまして、さまざまな活動に従事していただいています。その研修ですとか、小学校等へのスポーツ指導のために派遣するといった事業を実施しています。その他、これまでに紹介した事業でも、関係あるものについては再掲ということで下に紹介しています。最後に、④数値目標、ささえるという視点での数値目標としては、スポーツ少年団における有資格者の割合ということで挙げておりまして、令和 6 年度の実績は 47.6%ということになりました。令和 5 年度より若干下がってしまいました。目標値 70%ということで、残念ながら達成できなかったということになります。

駆け足で紹介しましたが、以上で説明を終わります。

会 長 それでは、スポーツ推進計画の進捗状況について、何かございましたら、お願いいたします。

委 員 それでは、中体連のほうから 2 点ほどお願いしたいことを申し上げます。8 ページ目の「する」スポーツの基本目標にあります地域スポーツクラブに関する情報の一元化ということで、新規のものだということで、本当に地域移行、地域展開ということで国から言われているのですが八戸市はなかなか進まないという感想というか、先生方の意見なんです。私は中体連の会長をやっていますので、中体連というのは文科省から組織として謳われていて、それは学校の先生でやっていくものなのだということで代々やっていますけれども、そこを切り離さない限りは学校の職員の誰かがやらなければならないのだけれども、でも部活動だけは地域に移行しよう。先生方の働き方改革で顧問としての部活動はだんだんと減らしていく、ということがあるのですけれども、やっぱり国の流れがあって、組織がまだ存在する限りはなかなか切り替えがうまくいかない。せめて地域の受け皿がどんどん増えていったり、プロスポーツがありますので、そっちとの連携を取りながら、下部組織でもいいですので、どんどん広げて行って欲しい。有料にはなると思うのですけれども。それと同時に地域を支える方々の人材バンクでもいいでしょうし、支えたい資格があるという人たちをどんどん募りながら、その地域の中学校とかの部活動に協力していただきたいという働きかけをスポーツ振興課のほうでもやっていた

だいているとは思うのですけれども、教育委員会とも連携を組みながらやっていると進むのかと思っていますので、どうぞよろしくをお願いします。

それとですね。中体連の県大会というのが、昔でいえば、八戸市、弘前市、青森市の3市で回していたんです。それに隣接している地域とブロック開催ということで行っているんです。それで、来年が八戸ブロックなんです。夏に総合開会式というのを屋外でやっていたんですけれども、今は熱中症対策で屋内になっているんです。今年から屋内での中央開会式ということで、縮小化にはしているんですけれども、無くしてはいないんです。そうしますと、県の中体連では、屋内施設の中で、空調のある施設でやっていくのが望ましいということになったんです。いざ、八戸ブロックでの開催だということで計画を立てて、八戸市のどこでできるんだと。ないんです。ですので、室内の競技は、全部、上北地域です。例えば、剣道、柔道、バスケットボールもかな、そういう辺り。そのルールでいくと八戸でできる屋内競技はないんです。開会式も結局は八戸ブロックでの開催といえども、おそらく七戸になるか、十和田になるか。私たちは上北の中体連もありますので、そちらの中体連で計画を立ててやってくれば良いということになるのですが、やはり県内を見ても八戸市にはそういった施設がないということになるとおそらく中学校、スポーツ少年団もそうかと思うのですけれども、夏の大会を空調のある施設でやらないと、ということが一文入ってくると、もう八戸市ではどこでもできないということなんです。ですので、既存の施設でもいいですので、何とか計画に盛り込みながら、県大会を開けるくらいの施設を作っていただければなど。去年くらいから、そういう話になっているんです。ですので、令和8年度から市体育館の建て直しということで計画されていますけれども、それも完成までとなると5、6年先ですよ。せめて東体育館のところにでも空調設備を付けながらでも誘致できるような施設が1つでも2つでもあればなど。もちろん三戸郡の町村等にも、こういう話もしながら何とか予算化してやっていただければなどという願いは中体連として行いたいと思っていましたので、この席を借りてお願いしたいなと思っていました。以上です。

会 長 他にいかがでしょうか。

委 員 では、私から。17ページに数値目標として、令和6年度47.6%とあるんですが、スポーツ少年団はパーセンテージだけでは分からない部分があって、団員数、指導者数という登録者数の問題があってですね。うちのほうも、どんどん減少しているというのが実態です。ですので、この47.6%が実際、何人に対しての47.6%かという人数的なところまで考えていかないと、一般にパー

センターだけでは計れないというところがあるのではないかと考えています。小学校の場合のスポーツ少年団については、まず小学校教員が完全に指導に携わらなくなって6年目になるんですが、主に支えているのは保護者が中心なんです。ですので、保護者が資格を取って登録をしたとしても、子どもが卒業して中学校に行けば、登録から外れていくという問題がありますし、4年に1回、登録更新をしなければならないので、その5年前とかに取った方々が今年度更新の時期を迎えて、それでまた更新するかといえば、そういう状態です。更新をしないでそのままにしている方も多いですし、まして昔持っていた教員の先生方の資格というのも登録もしませんし、更新もしないということで、こちら辺は有資格者をどういうふうにしていくかというのは、スポーツ少年団だけではなくて、スポーツ少年団活動をしていない各競技団体のほうのジュニアの育成をどういうふうと考えていくのかという視点で、ジュニアの育成については「する」、「ささえる」、どちらもスポーツ少年団が担っている部分が本当に限られてしまっているところがあって、やっぱり各競技団体の方のジュニア育成のほうと連携を取っていく必要があるのかなあと考えています。

本当に運営していくのも大変で、県のスポーツ少年団の登録料も今年度から値上げという形で、その流れをくって八戸市も値上げをせざるを得ず、団員も指導者も登録料を値上げしているという状態で、県内の様子を見ると、例えば、むつ市なんかは、市の方で登録料の補助をしてくれているような自治体も中にはありますし、まあ八戸市の場合は結構難しいかもしれないんですけども、そういうふうな形で誰もが気軽にスポーツに携われるというような環境をみんなで構築していく必要があるのかなと思っています。

あと、小学校でやっていたスポーツが中学校につながらないというケースがこの頃問題になっています。というのは、中学校の先生方の指導者数が、生徒数の減少でどんどん教員数が減ってきていますので、教員数が減ると複数で部活動を担当するということができなくなって、生徒の加入が少なくなって団体競技に参加できなくなると、自然に廃部という形で、部の数自体も中学校では減ってきているんじゃないかなと思います。ですので、小学校でやってきたのに中学校でやれないからどうしようかとか、転校しようかとか、あるいは違う競技にしようかとか、個人競技にしようかとか、そういうような形でつながっていかないという部分がやっぱりささえていく面で非常に課題だなと思っています。次第で、そういう実態があるということをお知らせしました。以上です。

会 長 他にいかがでしょうか。

委 員 お話を聞きしながら、この子どもたちのスポーツのことに将来の八戸のスポーツのことが掛かっているんで、当然やっぱり教育も市長部局も混じって考えていかなければならないところで、今、委員がおっしゃったように部活動の問題は県教育委員会のほうでは離すと決めているので、その辺を、中体連と組織の変容が変わらない限り、どっちの施策も進まないわけで、一体そこをどこが舵取りをして、八戸市の場合は、教育委員会が持っている問題と学校現場が持っている問題と、八戸市が進めていこうとするスポーツのことを、どうやってもどこかで全部まとめながら状況を、委員がおっしゃったようにスポーツ少年団の問題もそうですが、どこか音頭を取ってまとめていくのか、これから絶対的に必要になってくるのかなど。お話を聞きしても、中体連の組織の問題がどうなっているのか私は分からないし、スポーツ少年団の問題もどうなっているかというのは私たち全く分からないし、でも現場の子どもたちは実際越境して、部活が無くなると違う学区に行っている子どももあるけれども、でも今は子どもたちの人数が少なくなっているんで、それすらもできないだろうというのがもう見えているので、その辺は例えば教育委員会がその問題をボンッと市にやって話し合うのか、それともスポーツ振興課か、その辺はやっぱり考えて、どこでどういうふうに舵取りをするかというのは、この、今まちづくりをする観点からもどうしますか、どうなんですかということを逆に市に対してお聞きしたいというか、これからどうするかということは、今すぐ回答をとということではなくって、そこはやっぱり是非ともお聞きしたい、というところです。以上です。

委 員 今の件に関しては、部活動の地域移行を検討する地域スポーツ・文化活動検討協議会で、委員も会長として、私も中体連の立場で入ってやっています。昨年度に一段落して、2年間やって、意見をまとめて報告書を提出するといったところまで行きました。それを受けて今年度どのような形で、どうするんだということをやっているという段階です。その協議会は、教育委員会の学校教育課が所管しておりまして、そこにはアドバイザーを入れながら、元教員とか、中体連からも入っているんですが、そこで何とか国からの方針を八戸市でも実現していこうということできざまな取組をしています。そこにスポーツ振興課も入っていませんでしたっけ。

事務局 私たちのほうでも入っております。スポーツ担当だけではなくて文化担当も。学校部活動ということですので、スポーツの部と文化の部をいかに地域展開していくかというための話し合いを行っています。

委員 その協議会に関わっている部署は2つですか。

事務局 地域スポーツ・文化活動検討協議会には、市長部局ですと、スポーツ振興課と文化創造推進課の2課が入っています。

委員 これにですね。やはり、ボランティアではなく、きちっとした報酬を払わないと私たちも地域の人に呼びかけられないです。ですので、その予算とか、先生も兼職兼務とって、先生の中でもやりたい人がいる。その時に、兼職兼務をどういう条件だったとか、受け皿は地域のスポーツクラブになるのか、学校が回っていくのか、そこすらも分からないのですけれども、それを職員にどう下ろせばいいのか、決まっていないのです。でも国だけは、何年度までにああしなさい、こうしなさいと、現場でやれるものからやりなさいという言葉とすればあるんです。でも現場は怖くて動けません。ですので、先ほどのお願いにもあったんですけれども、さらにそれに人材とか予算とか。部活動指導員という方もちゃんとあるんです。でも、部活動指導員になるための条件が厳しくて、1週間に何時間以上、指導に行ける人でなければ駄目とか、です。あまりそれも増えていないのです。この辺もうまくコーディネートしてくれる方、部署がないとなかなか進まないのが現状なのかなと思っていますので、携わったものとして多少の情報提供とお願いということでお話ししました。

事務局 先般も、地域スポーツ・文化活動検討協議会が開催されたのですけれども、その中でも指導者の確保の問題と、部活動を行う拠点、活動の場までどうやって子どもたちを移動させるか、ということが議論されました。そういう中で八戸方式の地域展開をどうのようにやっていくのが、先生・生徒にとっていいのかの議論を重ねているところでした。学校教育課を中心に、スポーツ振興課だけではなくて、文化創造推進課も入りまして、こういった中で話し合いが行われていますので、その推移を見守っていただきたいですし、関係団体の方からも役員の方が委員として出られていましたので、参加される役員の方に各団体の意見といったものを伝えて、そちらの協議会の中で話してもらうこともできると思っていますので、よろしくをお願いします。

委員 よろしいですか。今のことに関連しまして、私も地域スポーツ・文化活動検討協議会の委員の一人なんですけれども、やはり課題として一番言われているのは指導者の確保です。人材をどうするんだと。大学生に協力して欲しいというも伺っていて、私は陸上競技部を担当しているので、協力していることもあるんですけれども、学生は自分たちも選手ですので、いつも指導にばかり行けないということとか、部活を今はやっていないが過去に経験をした学生もいるのではないかということもあったりして、その時は事前の指導もして送り出さなければならない。あとは、大学生の話になってくると、ケガをした、させた場合の責任の所在、そういうふうなこと。あと要望とすると、指導した後、大学の授業の単位に組み込んだらどうかという意見も伺っております。それは全て大学の担当部署には報告をして、大学としても八戸市の中学生を育てるのに協力できないかということは考えているところです。

委員 私から質問があります。10 ページのスポーツ少年団運営支援事業ということで、先ほど説明がありましたけれども、令和5年、6年がゼロということなんですけれども、これは委員がいらっしゃるのにより詳しく分かると思うのですが、今までは経費の一部補助があったけれども、無くてもできるということは、例えば、参加人数が減ったとか、そういうふうな形でさほど経費が掛からないようになったということですか。

委員 スポーツ少年団の主な収入は、登録料が大きくて、ほぼほぼそれなんです。それで一応、競技団体にスポーツ少年団大会を開催するに当たって、経費を支出しているんですけれども、大会自体が昔はいろんな競技があったものが、今は、卓球と野球、バレーボール、剣道、スケートだけなんです。その令和3年度とか4年度に支出している部分については、バスケットボール競技は県スポーツ少年団で大会をやらなくなったものだから、市独自で大会を運営して、そのために支出をしたりということで計上になっているんです。ですので、従来から八戸市スポーツ少年団は競技がたくさんあった時でも、登録料を中心にして運営してきたわけですね。それ以外の分には県の補助金を活用させていただいたり、という形でやっているわけで、これで済んでいるというのは、令和4年度まで登録団以外の部分でバスケットボールだったりのところで支出があったということでもあります。

委員 いろいろと物価高で経費が掛かる。みんな各大会、どこから経費を持ってこようかという時に、スポーツ少年団がゼロということで凄いなと思って。

委員 スポーツ少年団全体として、市から補助金はいただいているはずですので、そちらの分で、市からお金が全然出てないというわけではありません。

事務局 それと、令和6年度までは登録料が団員1,000円、指導者・コーチの方は1,500円であったものが、令和7年度からは委員がおっしゃるとおり、いろいろなものが高騰しておりますので値上げをしまして、団員1,300円、指導者・コーチの方は1,800円となっております。そのいただいた登録料で運営しているという状況です。

委員 よろしいでしょうか。「みる」スポーツか、「ささえる」スポーツか、どちらか分からないのですが、陸上競技をやっている選手の中に聴覚障がい活躍している選手がいて、市庁にも看板を掲げていただいております。それでいろいろな場面で手話通訳をお願いして、表彰式等を行っているのですが、その手話通訳の方、2人1組でいらして、1時間5,000円、2人で来るので10,000円×2時間ですと20,000円くらい、そういうものが必要になってくるのですが、八戸市でも青森県でも手話言語条例というものを制定しておりますので、この中に情報保障という言葉を入れて、そういう人たちがスポーツしやすい、あるいは保護者が応援しやすいというような環境づくり、今、具体的には手話通訳のことですけれども、文言を入れていただければと思います。検討をお願いします。以上です。

会長 ありがとうございます。他によろしいでしょうか。

委員 最後に1つ。やっぱりスポーツって憧れが一番大きい動機づけになると思うんです。といった時に、地域の身近なプロスポーツへのアクセスというものがあるのですが、八戸出身、あるいは八戸市にゆかりのある方で、今現在もかなり活躍されている方がたくさんいますよね。プロ野球で言えば、福島蓮選手とか、私が青潮小学校にいたときの野球部の子どもだったんですけれども、あと自転車もありますし、先ほどのデフリンピックに出場される方とか、いろいろ八戸ゆかりの選手がいらっしゃるの、そういう方とのつながりというものを切らさないようにして、事あるごとに八戸市に来てもらって子どもたちと一緒に体験したり、お話を聞いたりする機会をたくさん作っていただければなあと思っています。以上です。

会長 ありがとうございます。他によろしいでしょうか。

次第 4 その他

それでは次第に戻りまして、4、その他ですが、振り返りまして全体として何かありましたらお願いしたいのですが。

では、審議を終了とします。進行を司会にお返しします。

次第 5 閉会

司 会 宮腰会長、ありがとうございました。事務局のほうから連絡事項はございませんので、それでは、以上をもちまして、令和7年度第1回八戸市スポーツによる人・健康・まちづくり推進協議会を終了いたします。皆様、誠にありがとうございました。